



# 総合防災訓練&対策(地震編)

9月11日(水) 地震・津波を想定した総合防災訓練を実施しました。

和歌山県沖を震源とする南海トラフ地震(マグニチュード9.0)が発生し、東京の震度は6強、激しい揺れが15秒間続き、5分後に津波特別警報が発令。地震発生後、ライフライン(電気・ガス・水道・電話)が停止し、電力供給は自家発電のみとなる想定です。

当日は、入所及び通所利用者の皆様にも訓練に参加していただく趣旨で、(経口摂取の方のみ)昼食に防災食を召し上がっていただきました。

これまでの訓練の経験を活かし、災害時でもスムーズに食事していただけるようにメニューはプリン状のおかゆ、ペースト状の筑前煮、飲むゼリー等を提供いたしました。

また、防災食が食べられなかった方には、栄養補助食品を用意させていただきました。

13時59分に緊急地震速報が発令された旨を放送し、14時00分に地震発生の訓

練放送が入った後、訓練が始まりました。地震発生時、各部署ではまず利用者様および職員の身の安全を守る初動対応を行います。職員は、地震発生時に取るべき行動を再確認しながら訓練に参加していただきました。

同時に4階会議室に災害対策本部を立ち上げ、院長以下、災害対策本部要員が参集し、各部署から報告される被害状況を把握し、災害対応として必要な指示ができる体制を整えました。

その後、1階外来、リハビリ及び通所から利用者様を2階へ避難搬送する訓練を行いました。簡易救護担架を用いて利用者様を2階へ搬送するには、上階からの応援を含めた職員が、利用者様を運ぶ役



4階に災害対策本部を設置し指示、報告をうけている様子

割、医療デバイスを運ぶ役割、避難ルートを確認し先導する役割に分かれて迅速・安全に行動することが求められるため、訓練を重ねていくことが必要です。

センターでは、このような総合防災訓練を年2回実施しており、訓練を通して見えてきた課題をもとに利用者様と職員の安全を守るための訓練や検討を重ねております。今回は地震・津波の想定でしたが、次回(3月予定)の訓練では、地震・火災を想定した訓練を実施する予定です。

災害は、いつ起こるか分かりません。東部療育センターでは、災害時対応マニュアルを作成し、災害発生時には速やかに災害対策本部を立ち上げ、利用者様と職員の安全を守る態勢を築いてまいります。

(事務長 大野)

# 永年勤続表彰

7月30日に日本重症心身障害福祉協会の永年勤続者の表彰が行われました。

また、5月23日に開催された「公益社団法人日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会」において、当センターの渡部珠江さんが1年以上に亘る研修を終え、「協会認定重症心身障害看護師」として認定されました。

この研修は、重症心身障害の看護分野における専門的な知識・技術を理論的に探究し、質の高い看護実践活動と指導的役割を果たす人材を育成する目的で開催されています。

今回の認定を受け、ご本人からは「学んだこと



を重症心身障害児者のケアに活かしていきたい」との抱負が寄せられました。

(庶務係)



# 療育部 日中活動の紹介

3階南病棟ではボールプール活動をしました。テーマは「海へ出かけ」。海の歌と青いスクーターで風と音を感じるとみなさんも笑顔に。次に海に見立てたボールプールに移動。ボールに乗るときに滑る感触に目を丸くして、表情いっぱい表現してくれました。いよいよボールプールを泳ぎます。ボールの上に乗ったシートで右へ左へ上や下、最後は円の動きも体験し海を感じました。

3南 (3階南病棟 小川)



2西病棟のムーブメント活動は、毎回グループの組み合わせを変え、違うメンバーと一緒に活動できるように工夫しました。今回の活動は「Tealabo☆」をテーマに映像を風船やスクーター、壁に映し出しながら幻想的な空間の中で行いました。目の前のスクーターには、色とりどりの線や大きなクラゲ、金魚が動き出します。自分から手を伸ばして触ろうとしたり、スクーターを掴む参加者もあり、積極的に活動を楽しんでいました。

(2階西病棟 宮田)

2西



今年度は4つのグループ活動を行なっています。コミュニケーション演出、コミュニケーション受容、感覚、手指操作とそれぞれの強みを活かしたメンバー編成になっています。3ヶ月ごとに内容を変え、借り物競争や動画で推し活、梅雨体験やサッカーゲームなど、色々な活動を行なっています。また、8月には季節のグループ活動としてスイカ割りゲームを楽しみました。後半戦も色々な活動で利用者様に楽しんでいただきたいと思います。お楽しみに！

2南



3西 (3階西病棟 平井)

8月は、エアポリンを川まで移動するバスやライン下りの船に見立てて「ひなげし川ライン下り」観光ツアームーブメント活動を行いました。川までのバスの移動では緩やかな揺れを感じ、リラクセスした表情で始まりました。川に到着し船に乗ると、ゆっくりな流れから、船頭さんの「波が来るぞー」の声で、揺れが大きくなり、大波に見立てた青いスクーターが迫ってくる、目を丸くしたり、波(布)に手を伸ばして触ろうとしたり、大賑わい。そこに突然、「船が沈没するぞー」の声と共に身体が沈む体験、その後無事に港に着いて一安心、医師や看護師も入って笑い声や歓声がデイルームに響き、ワクワクドキドキのひと夏の冒険を楽しむことが出来ました。

通所



今年度は近隣施設の水再生センターへ花見に出かけ、5月はポッチャ・モルックを楽しみ、6月にはシェーピングフォームと絵の具を使ってのマーブリングで作品を作りました。他にも、7月はパラシュートやボールリング、8月は水遊び、苗植え等それぞれの利用者様に合わせたペース・環境で色々な日中活動を楽しんでいます。

(通所 三上)

乳幼児通所



今回は運動会の準備の活動と7月の運動会を紹介致します。準備は5月から始まりました。5月には自分で選んだ色で模様を付け、可愛い衣装を作りました。6月にはダンスの練習をし、活動を積み重ね、本番に向けて気持ちを高めました。7月の本番では、お揃いの衣装を着て、ボール競技・サーキット・ダンスなどを通して、お友達と楽しい時間を過ごしました。

(通所 木原)

# チーム紹介

## 骨折予防対策ワーキンググループ

2024年2月より医療安全管理委員会の専門部会として、骨折予防対策ワーキンググループが発足しました。

当センター利用者様は基礎疾患や薬剤による影響、生活習慣など様々な面から骨密度低下を来しやすく、昨今は高齢化も相まって予期せぬ骨折事例がみられております。

特に骨粗鬆症の進行は無症状で分かりにくいため、骨密度検査や血液検査で骨折リスクを正確に評価し、適切な治療やリハビリ、生活支援につなげていく必要が求められます。

骨密度評価はこれまでかかとの骨を超音波で測定するQUS法を用いておりましたが、2023

年12月よりDXA法という腰椎や大腿骨頸部の骨密度評価が可能なX線装置を新たに導入し、活用が始まっております。

本グループは医局、療育部、リハビリテーション科、薬剤検査科、栄養科、地域療育支援室、事務室といった全職種からなるメンバーで、各々の骨折事例の評価検討から知識の共有、日常の更衣・移乗等における職員のケアスキルの向上等を活動目標とし、センター一丸となって骨折予防に取り組み、皆様の健康維持やQOLの向上に努めて参ります。

(医局 吉田)



造影検査室  
エックス線を利用して体内の様子を透視します



「コツコツ通信」を院内にて掲示しています

## 褥瘡予防対策部会

私たち褥瘡予防対策部会の役割は、

- ①褥瘡予防対策に関する指導や助言を行う
- ②褥瘡治療に関する具体的な助言を行う
- ③褥瘡予防や創傷ケアに関する知識、技術の普及と向上を図る
- ④褥瘡発生の把握・検証を行い予防の手だてを導き出す、の4つです。

特に重症心身障害児者に特徴的な褥瘡発生状況・動向・経過の把握を行い、各部署にフィードバックするよう努めています。

また、褥瘡予防対策部会リンクナース会では、各部署でリーダーシップを発揮するために、毎回褥瘡予防や褥瘡ケアについて学習会を行い知識・

技術の習得に努めています。

褥瘡予防対策部会は「褥瘡発生ゼロ」を目標に活動しています。

医師、看護師、理学療法士、栄養士、事務部門が一つのチームとなって討議・検討しながら、褥瘡予防・創傷ケア・スキンケアの技術向上を目指しています。

(療育部 山本)



発行通信でさまざまな情報を共有しています

## 医学部学生の実習受け入れについて

診療部長 荒井康裕

当院では2009年度より東京慈恵会医科大学の2年生を、2014年度より日本大学医学部の1年生の病院実習受け入れを開始しました。

毎年、各大学生の3〜4名が5日間にわたって院内で実習します。医学部1年、2年生では専門知識も少なく、臨床医学の経験も全くない中、いきなり現場に向くことは戸惑いも多いかと思われま

す。その戸惑いも大きい分、新鮮な思いを抱いていただけるようにです。

療育部スタッフ、医師、時にはリハスタッフと共に過ごしていく中で各学生それぞれの感性が磨かれ、よき医療者として生きていく思いに繋がると信じております。

大学のキャンパスでは学べないことを少しでも学んで欲しいと思います。

2020年度および2021年度は新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延したため受け入れを断念しましたが、2022年からは学生の体調管理を確認した上で再開の運びとなりました。

受け入れ開始以来、総実習者数は104名となりました。

多くの経験を積んだ医師であっても皆、実習学生と同じ立場であったこと、思いを馳せ、今年も医学生と向き合っております。



## つれづれ日記

今年7〜8月は、西日本を中心に太平洋高気圧に覆われやすかったため晴れて日射が強かった影響もあり、夏の平均気温平年差は東日本で+1.7℃、西日本で+1.4℃となり、1946年の統計開始以降、夏として西日本で1位、東日本で1位タイの高温となった。

また、東京都(千代田区)における猛暑日(最高気温が35度以上)日数は19回と、近年では昨年(同期間で22回)に次ぐ暑い日々だったとのこと。猛暑のほか、突発的かつ局地的に激しい雨や落雷をもたらす「ゲリラ雷雨」も台風の影響等により数多く発生し、交通機関の(計画的)運休や花火大会の中止等、急遽対応を迫られることもありました。

9月に入っても観測至上最も遅い猛暑日となることもありました。下旬(作成時点)になると、朝晩は少しばかり過ごし易くなってきました。

今後、少しずつ過ごし易い日々となるのが期待されますが、気温の変化が著しい時期でもありますので、皆さん、くれぐれも体調には十分お気を付けてください。

センターの活動では、今年新型コロナウイルス感染症の予防に十分留意しつつ、病棟・通所でのバスハイクや遠足・外出を各家族等と一緒に行動することが出来るようになりました。

また、恒例の夕涼み会も、暑さを避けるため例年より少しばかり時期を遅らせて開催するよう計画していますので、是非、楽しみにしてください。

(事務長 大野)

## 編集後記

広報誌が手元に届く頃には景色はすっかり秋模様になっていくでしょうか。次回お会いするのは1月号：1年経つのが年々早く感じます。

当センターは来年開設20周年を迎えます。皆さんの情報を、広報誌などを通してこれからも皆さまにお届けできるように...

広報委員会  
事務局



これまでのわか草を  
ご覧になりたい方は  
こちらからどうぞ